

参考資料

参考1 ビジョン策定までの流れ

本ビジョンは、策定の各段階で「南草津エリアまちづくり推進懇話会」での意見や助言等を踏まえ、策定作業を進めました。

令和2 (2020) 年度	7月	上			現状把握 課題整理
		中			
		下			
	8月	上	3日 第1回推進懇話会		
		中			
		下	21日 第1回都市と交通ワークショップ		
	9月	上			
		中	11日 第2回都市と交通ワークショップ 15日 拡大BKC地域連携情報共有ミー ティング		
		下			
	10月	上	2日 第3回都市と交通ワークショップ 6日 第2回推進懇話会		
		中			
		下			
	11月	上			
		中			
		下	25日 第3回推進懇話会		
12月	上				
	中				
	下				
1月	上				
	中	20日 第4回推進懇話会			
	下				
2月	上				
	中				
	下				
3月	上	○日 第5回推進懇話会			
	中				
	下				
令和3 (2021) 年度	パブリック・コメントの実施			ビジョンの策定	

1)南草津エリアまちづくり推進懇話会

①開催経過

回	開催日時・場所	議題
第1回	令和 2(2020)年 8 月 3 日(月) 15:00～17:00 【アーバンデザインセンター・びわこ・くさつ】	(1)南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)策定方針について (2)南草津エリアの現況と課題について
第2回	令和 2(2020)年 10 月 6 日(火) 14:30～16:30 【フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室】	(1)南草津エリアの課題について (2)基本方針(案)およびゾーニング(案)について
第3回	令和 2(2020)年 11 月 25 日(金) 14:30～16:30 【フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室】	(1)南草津エリアのコンセプト案について (2)施策(案)について
第4回	令和 3(2021)年 1 月 20 日(水) 14:30～16:30 【フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室】	(1)南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)素案について
第5回	令和 3(2021)年 月 日() 〇:〇～〇:〇 【フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室】	(1)南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)パブリック・コメント案について

②委員名簿

区 分	所 属	氏 名
住民代表	遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議副会長	石垣 雅野
	矢倉学区未来のまち協議会副会長	梅村 進
	南笠東学区まちづくり協議会理事	棚橋 幸男(副座長)
	老上学区まちづくり協議会会長	田村 勝美
	老上西学区まちづくり協議会副会長	橋本 光夫
	志津南学区まちづくり協議会顧問	花澤 仁左エ門
学識経験者	滋賀医科大学公衆衛生看護学講座教授	伊藤 美樹子
	立命館大学理工学部教授	岡井 有佳
	立命館大学理工学部教授・キャンパス計画室副室長 (アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業副センタ ー長)	武田 史朗(座長)
民間事業者	ニプロ株式会社ニプロ・ライフサイエンスサイト 管理部部長	足立 秀治
	パナソニック株式会社アプライアンス社人事・総務セン ター総務部総務一課課長	有村 敬三
	西日本旅客鉄道株式会社京都支社地域共生室 室長	野口 明
公募委員	公募	笠井 真弓
	公募	新谷 彩
	公募	長谷部 尚孝

(区分別、氏名五十音順)

2)パブリック・コメント

南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)案について、広く意見募集を行いました。

○実施期間：令和3(2021)年○月○日～令和3(2021)年○月○日

○提出者数：○人

○意見総数：○件

参考2 上位関連計画

1) 上位計画

①第6次草津市総合計画(令和2(2020)年度策定予定)

- JR南草津駅周辺を「にぎわい拠点」、草津JCTおよび草津田上IC周辺を「学術・広域連携拠点」に位置づけ予定
- 令和14(2032)年度が目標年度



図 参考-1 まちの構造図(案)

②草津市都市計画マスタープラン(令和3(2021)年度策定予定)

- JR南草津駅周辺を「南部中心核」、草津JCTおよび草津田上IC周辺を「複合連携核」、老上西に「地域再生核」を位置づけ
- 令和22(2040)年が目標年次



軸

市内外や市内の核の間を道路や公共交通の軸で効果的に結ぶことにより、賑わいや利便性の向上を図るとともに、景観・環境形成や防災性向上に寄与する水とみどりの軸の形成を目指します。

核

市内の拠点として核を設け、互いに地域の特長を生かした役割を担い、相互に補完し合いながら、市内でメリハリある土地利用に向けた拠点性の向上や地域再生の核の形成を目指します。

ゾーンおよび土地利用転換区域での土地利用を基に、施設の立地誘導や環境整備等を行うことにより総合的に拠点性を高め、人が集い、活動し、交流できる空間の形成を目指します。

土地利用転換区域

本市が持つ土地利用の可能性を最大限に発揮できるよう区域を設けて、区域毎の特性に応じた計画的な土地利用を検討し、契機を捉えた都市づくりを推進します。

ゾーンの中でも、特に重点的な検討と取組の推進が必要と考えている箇所を示しています。

ゾーン

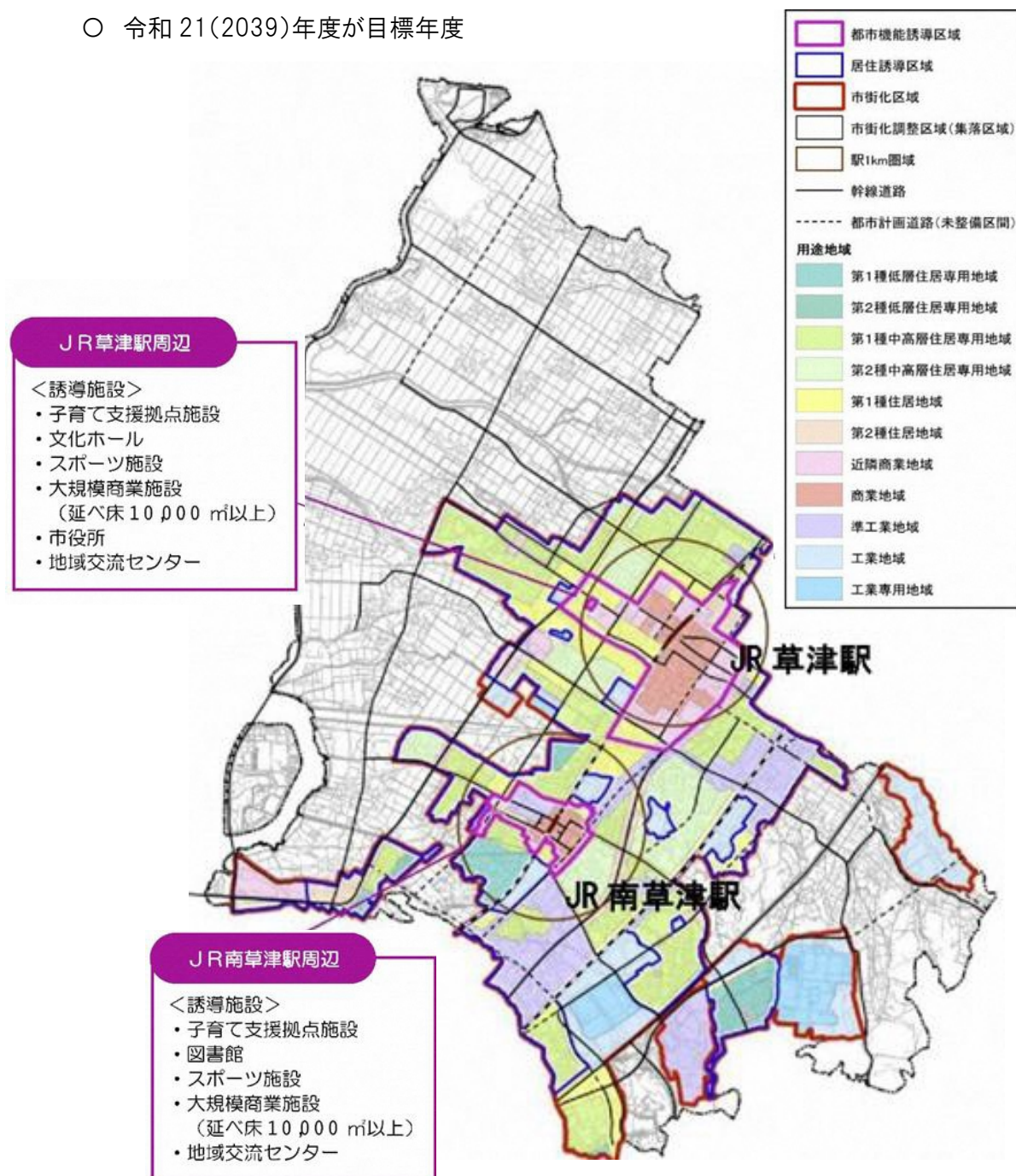
本市の都市づくりの基本となる土地利用の誘導・規制を促進するにあたりゾーンを設定します。

都市計画制度の運用において基礎となる区域区分(市街化区域・市街化調整区域)および用途地域の指定を通じて土地利用を実現することを基本とします。

2) 関連計画

③ 草津市立地適正化計画(平成 30(2018)年 10 月)

- JR 南草津駅周辺を都市機能誘導区域(誘導施設:子育て支援施設、図書館、スポーツ施設、大規模商業施設、地域交流センター)、工業系用途および西側商業エリア以外を居住誘導区域に設定
- 令和 21(2039)年度が目標年度



④草津市地域公共交通網形成計画(平成30(2018)年10月)

- 都市機能誘導区域と生活・交通拠点、広域交通連携エリアといった拠点間を結ぶ基幹軸としての公共交通路線と支線交通・補完交通を設定
- 令和9(2027)年度が目標年度

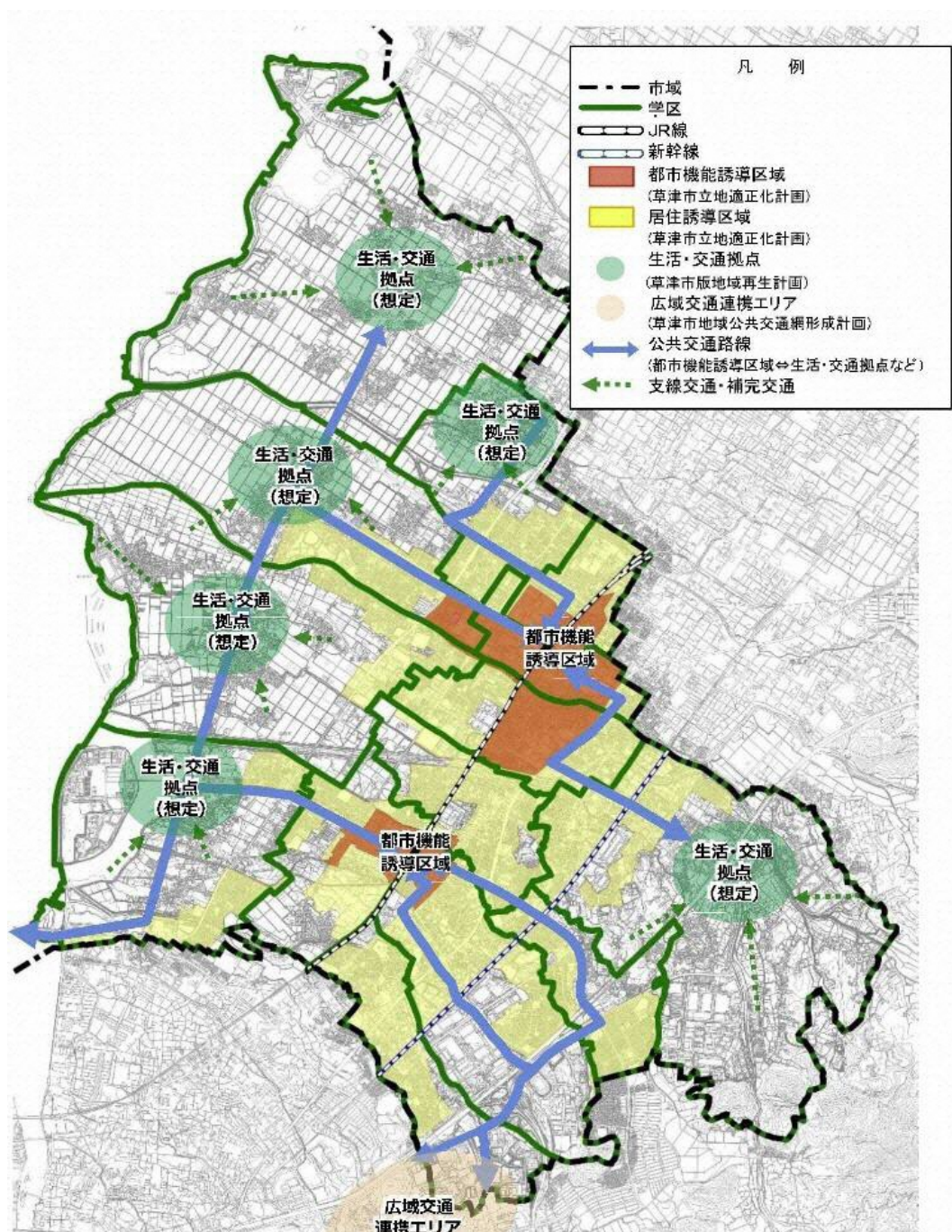
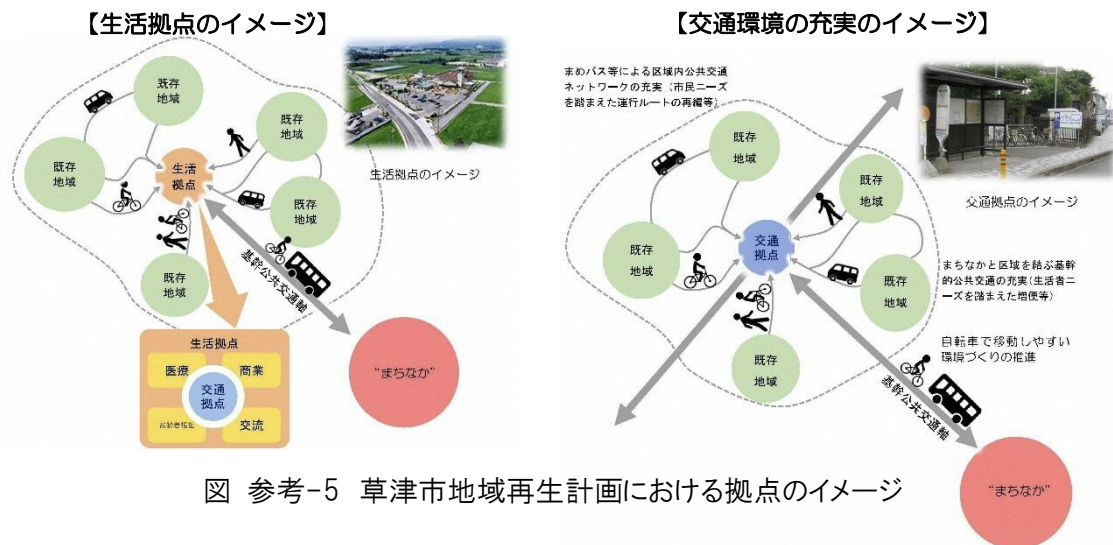


図 参考-4 計画の連携イメージ

⑤草津市版地域再生計画(平成 30(2018)年 10 月)

- 生活拠点の形成、交通環境の充実、地域資源を活かした産業の支援を基本方針に設定
- 令和 21(2039)年度が目標年度

施策の柱1 生活拠点の形成
 施策の柱2 交通環境の充実
 施策の柱3 地域資源を活かした産業の支援



⑥草津市健幸都市基本計画(平成 28(2016)年8月)

- 都市計画や公共インフラ整備等における健康に対するアプローチ、個人や地域の主体的な健康づくりの支援等の強化、健康産業の振興や大学・企業等との連携・協働した取組
- 令和4(2022)年度が目標年度

目指せ、健幸都市くさつ！！
 ～住む人も、訪れる人も、健幸になれるまちを目指して～

まちの 健幸づくり	1 出かけたくなるまちづくり	(1)歩いて暮らせるまちづくり (2)安全・安心に配慮した公共空間の整備 (3)賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり
	2 交流機会や健康拠点の充実	(1)交流機会の充実 (2)健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用
ひとの 健幸づくり	1 地域の主体的な健康づくりの推進	(1)地域の特性に応じた健康づくり (2)支え合いのコミュニティづくり
	2 個人の健康づくりの推進	(1)全世代に共通した健康づくり (2)ライフステージに応じた健康づくり
しごとの 健幸づくり	1 地域産業と連携した健康産業の活性化	(1)ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援 (2)特産物を活かした健康な食等の推進
	2 大学・企業等との連携	(1)産学公民連携とその仕組みづくり (2)健康に関する情報提供

図 参考-6 計画の体系

⑦びわこ文化公園都市将来ビジョン(平成 24(2012)年8月・滋賀県)

○ 「土地利用」から「機能連携」へ、県内外の人々が交流する場、文化・芸術を創造する場、未来成長へ挑戦する場、歴史と暮らしを紡ぐ場、いのちと健康を支える場という将来像を設定

○ 令和 12(2030)年が目標年度

① 県立アイスアリーナ	⑪ 長寿社会福祉(レイカディア)センター	⑳ 障害者更正相談所
② 龍谷大学瀬田キャンパス	⑫ 福祉用具センター	㉑ 障害者福祉センター
③ 都市公園 文化ゾーン	⑬ 薬学総合センター	㉒ メイプル滋賀工場
④ 県立近代美術館	⑭ 中央子ども家庭相談センター	㉓ 京都市大学生態学研究センター
⑤ 県立図書館	⑮ 歯科技工士専門学校・総合センター	㉔ 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
⑥ 県埋蔵文化財センター	⑯ びわこ学園医療福祉センター草津	㉕ 住宅地(大津市青山・松が丘・草津市若草地区)
⑦ 東大津高校	⑰ 精神保健福祉センター	
⑧ 滋賀医科大学	⑱ 精神医療センター	
⑨ 滋賀医科大学付属病院	㉖ 草津養護学校	
⑩ 日赤滋賀県赤十字血液センター	㉗ むれやま荘	

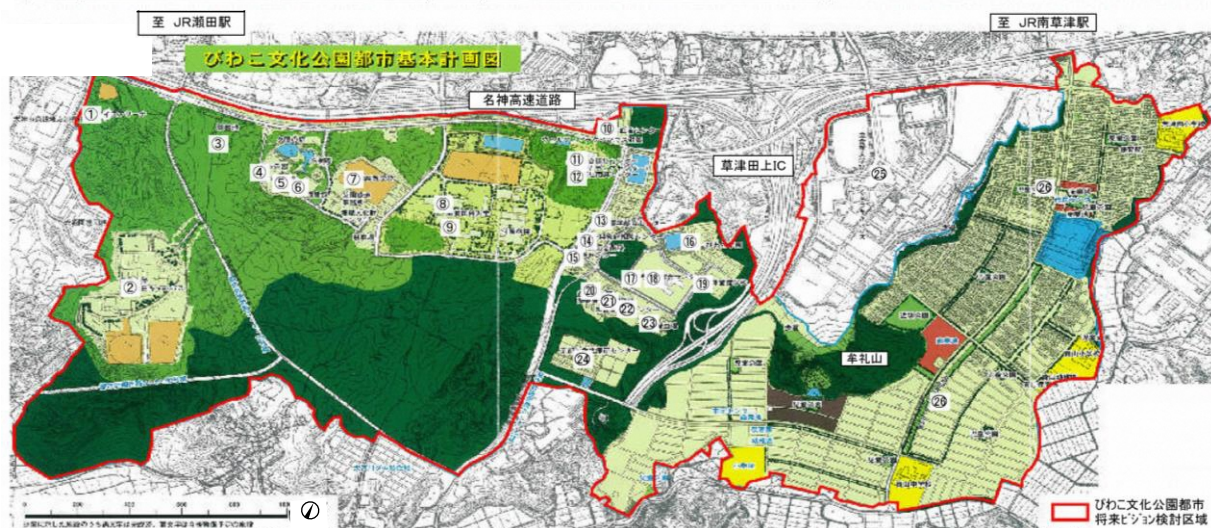


図 参考-7 施設・機関位置図

参考3 南草津エリアの現状

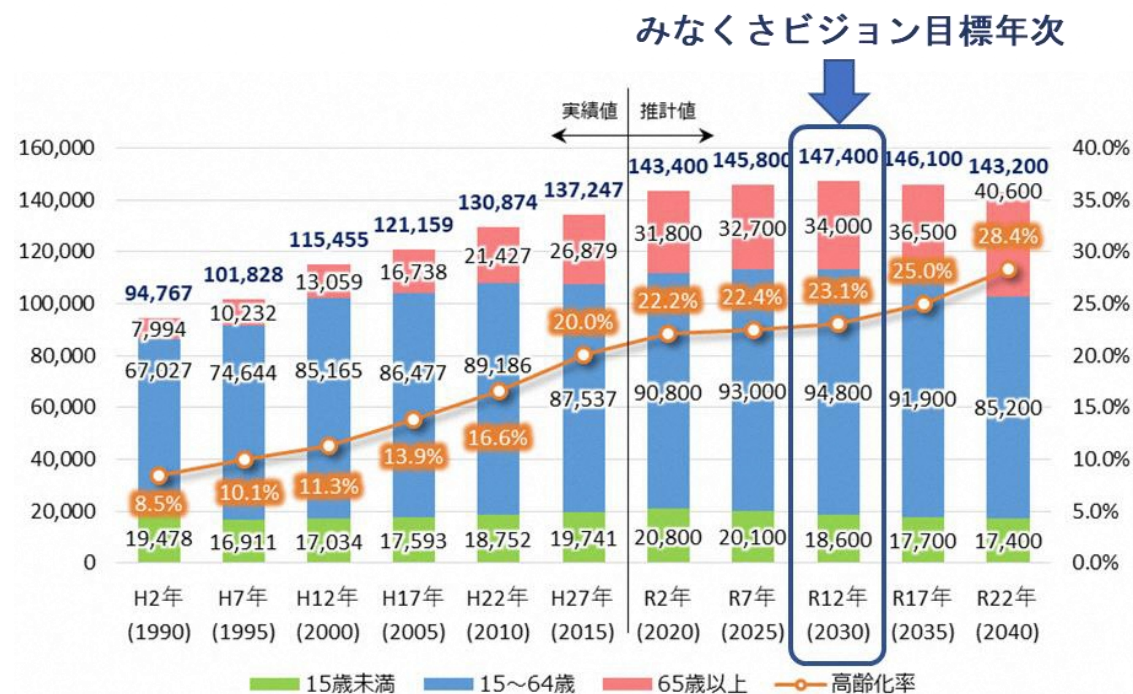
1)人口動向

①人口の状況、見通し

- 全国的に人口が減少傾向を示すなか、草津市および南草津エリアの総人口は一貫して増加してきた。
- 草津市の人口は、令和 12(2030)年の 147,400 人をピークに減少に転じるが、南草津エリアにおいては、平成 27(2015)年の 59,481 人から令和 22(2040)年の 25 年で約 6,000 人増加し 65,400 人程度になることが見込まれている。
- 学区別の人口は、老上西学区は微増であるもの全学区において増加する見込みであり、特に老上学区ではプレミアムタウンの整備等により約 3,000 人の増加を見込まれている。

②高齢化の状況、見通し

- 平成 27(2015)年の南草津エリアの高齢化率は 17.1%(草津市全体 20.0%、全国平均 26.6%)となっている。
- 令和 22(2040)年には 24.3%に増加することが見込まれている。
- 学区別の高齢化率は、全ての学区において増加が見込まれている。



※実績値は国勢調査、推計値は草津市推計

図 参考-8 草津市の人口・世帯の推移

表 参考-1 平成 27(2015)年人口

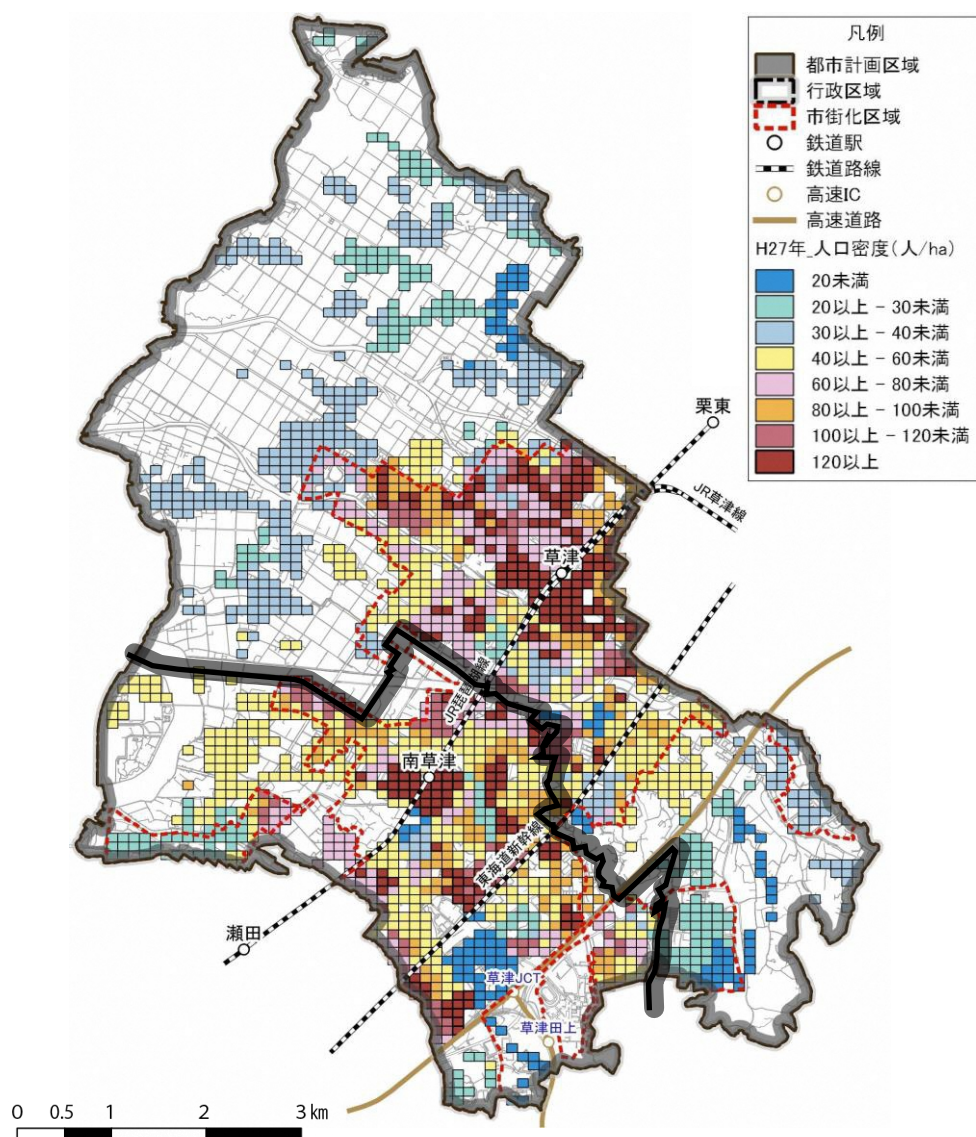
学区	人口	高齢化率
志津南	6,344 人	17.3%
矢倉	10,105 人	20.9%
玉川	15,006 人	13.6%
南笠東	9,936 人	14.0%
老上	9,472 人	15.2%
老上西	8,618 人	24.5%
南草津エリア計	59,481 人	17.1%

表 参考-2 令和 22(2040)年人口推計

学区	人口	高齢化率
志津南	7,067 人	24.4%
矢倉	10,937 人	26.5%
玉川	15,789 人	22.1%
南笠東	10,578 人	23.3%
老上	12,404 人	23.5%
老上西	8,648 人	28.0%
南草津エリア計	65,425 人	24.3%

③人口の分布

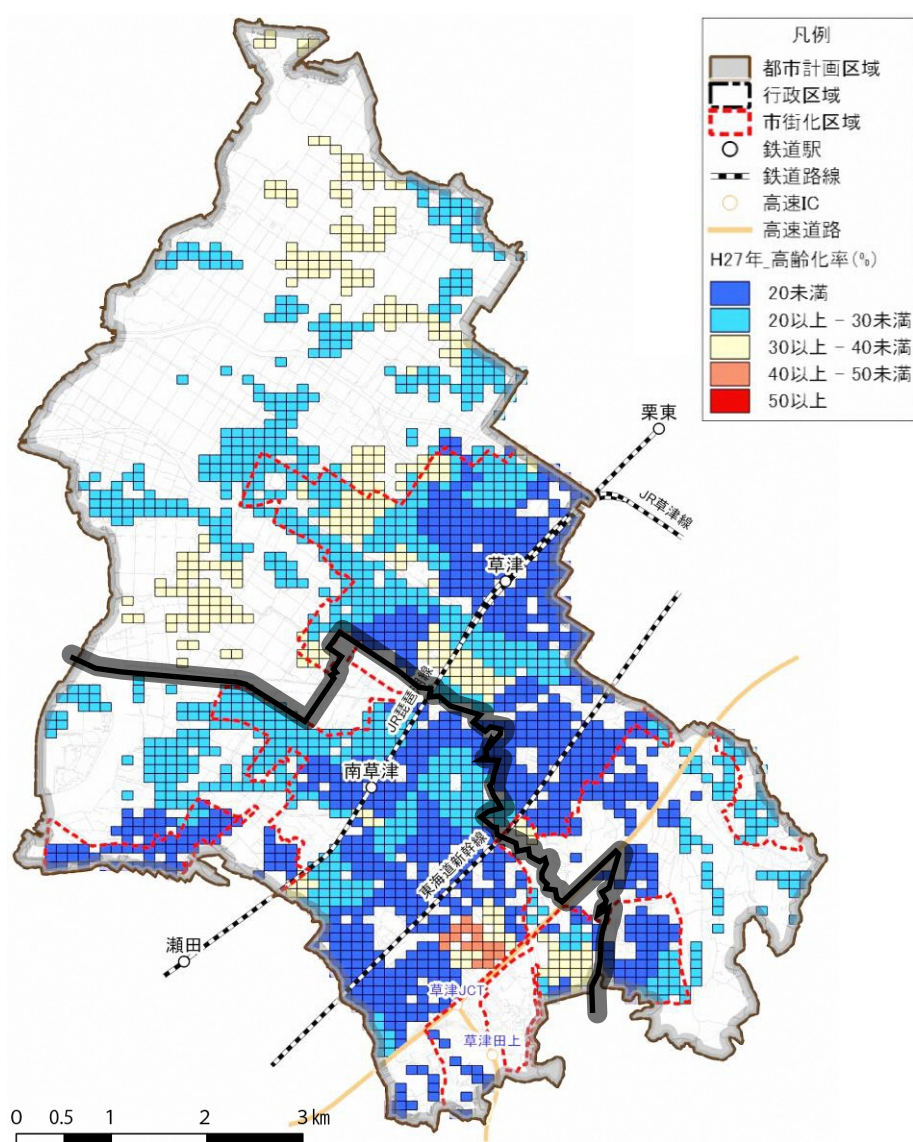
- 人口密度 40 人/ha 以上の人口集中地区は、市街化区域における商業施設、工場、公共公益施設を除くほぼ全てと老上西学区の集落部に分布しており、JR南草津駅周辺や住宅団地が分布する地域の人口密度が特に高くなっている。



※国勢調査のメッシュデータをもとに算出（高齢化率は年齢不詳含まず）

図 参考-9 平成 27(2015)年高齢化率

- 南草津エリアの高齢化率は 20%前後の地域が多いが、比較的早期に整備された丘陵住宅団地(桜ヶ丘、若草)の高齢化率が 30～50%と高くなっている。



※国勢調査のメッシュデータをもとに算出（高齢化率は年齢不詳含まず）

図 参考-10 平成 27(2015)年高齢化率

④流入・流出人口

- 平成 27(2015)年国勢調査によると、草津市における流入人口は 46,283 人、流出人口は 36,736 人で約1万人の流入超過となっている。

⑤大学生数

- 立命館大学びわこ・くさつキャンパスに通う大学生は約 15,000 人となっている。
- そのうち約 7,300 人(約 49%)が草津市内に居住している。